

令和元年度尾張旭市国民健康保険特別会計

歳入歳出決算認定について

討論要旨 川村つよし議員

国民健康保険制度は、我が国の皆保険制度を支える最後の砦と言っても過言ではない。必要なときに安心して医療にかかることができるか、その視点で考えると、保険証が手元にあるかどうかは重要だ。

今年、保険証の更新で郵送したものの市へ戻ってきたのが198世帯。その内訳で、あて先不明が17件。短期保険証が34件と聞いている。

全日本民医連が、経済的事由による手遅れ死亡事例調査を実施しているが2019年分の概要報告では、短期保険証や資格証明書など健康保険証の制約が背景にあったとされる（手遅れ死亡）事例が、全国で31件にのぼった。氷山の一角と考えて良い数字だが、尾張旭市にお住まいの、国保加入者に、保険証が手元にないことや経済的な理由により、受診を控えている方がいないのか、そのことが問題だ。

保険税の滞納も、市民からのSOSだととらえ、支援に結びつける方法を考えなければならない。合わせて、国保税の引き下げ、子どもの均等割の免除の検討を促す。